

多検体精製液体クロマトグラフィー

(分子量トリガー自動分取精製システム)

日本ウォーターズ株式会社製

設置場所： バイオナノテクノロジーセンター（片柳研究所棟 6階）



目的化合物の分子量を、あるいは特徴的なUV波長をトリガーとする自動分取精製システムです。膨大な化合物ライブラリーの精製でフラクション数を大幅に減らし、目的成分のトラッキングとハンドリングを容易にします。

装置の特長

MassLynx と FractionLynx で簡単操作

2525 バイナリグラジェントモジュールは0.5ml/min ~ 150ml/min の広い範囲で再現性良いグラジェント 分析から分取へのスケールアップが容易

2767 サンプルマネジャーは一台に最大プレート15枚の大容量で注入と分取を行います。分析用・分取用の2つのインジェクタポートを注入用、分取用の独立したZデバイスを持つため、分析・分取間のキャリーオーバー、フラクション間のクロスコンタミを心配する必要がありません。